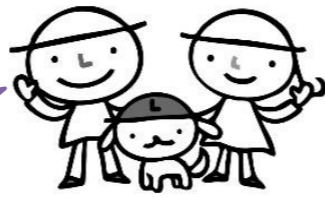


りとるらいふ 通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉サポートセンター
りとるらいふ
発行日：2023年8月

8月に入り暑さの厳しい日が続いております。みなさまはどのようにお過ごしでしょうか？
夏休みも始まり、放課後等デイサービスでは朝から子どもたちの元気な声が聞こえています！
さて、今月号のトップ記事では各事業所で募集した川柳を掲載します。お題は「りとるの日常」です。限られた文字数の中からのぞける様々な日常をぜひお楽しみ下さい！😊



りとるらいふ川柳

きら

それぞれの
ペースで過ごす
きらの日々
大滝 健一



とも

皆さんと
ともに楽しく
過ごす日々
横尾 美紀



ららん

ランランと
膝上であそぶ
こどもたち
山本 翔平



もーと

ニニニニで
おひらいたあり
コンサート
山田 美春



にこ

笑顔あつまる
にこの部屋
放課後に
渡辺 功



ぷあん

おかえりなさい
ぷあんの一日
始まります
斎藤 香織



ふあみりあ

人生を「とも」に
「ららん」と歌いながら
「も(っ)ーと」楽しく
「きら」っとひかる笑顔で
「にこ」にこしながら

「ふあみりー(あ)」家族のように
丸っとぷあん(不安)「ぷあん」を解消
いつも安心あなたとのそばに
「りとるらいふ」
(多)字余り。笑笑

片田 竜一



ならぬことはならぬものです

きら 大滝健一

「ならぬことはならぬものです」

この言葉を聞いたことがありますか？

昔、福島県の会津地方に旅行に行った時にこの言葉を知りました。会津藩の武家の6歳から9歳までの男の子どもたちは、地区ごとに「什(じゅう)」というグループに入り、基本的に遊びも勉強も「什」のグループで行っていたとのこと。什には、決まり、ルールがあり、それを「什の掟(じゅうのおきて)」と言います。什の掟は、7つあります。

- 一、年長者の言うことに背いてはなりません
- 二、年長者には御辞儀をしなければなりません
- 三、虚言をいふ事はなりません
- 四、卑怯な振舞をしてはなりません
- 五、弱い者をいじめてはなりません
- 六、戸外で物を食べてはなりません
- 七、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません

そして、最後に「ならぬことはならぬものです」を付け加えたものが「什の掟」でした。

破ると罰があり、軽いものは、皆の前で「無念でありました。」とお詫びをすること。それより重いと、皆からのしっぺ。さらに重いと、火鉢に手をかざす「火あぶり」、雪に埋めてしまう「雪埋め」などがありました。最も重い罰は「絶交」。この罰は子どもたち自身で考えて作られたそうです。「絶交」というのが、いかにもそれらしいですね。

さて、その罰ですが、今ではもちろん虐待にあたります。当時の子どもたち自身が考えたとのことですが、現代ではいくら子どもたちの組織のルールとは言え、いじめとして大問題になるでしょう。

「ならぬことはならぬ」という言葉ですが、別の言い方をすれば、「ダメなものはダメ」という言い方になります。現代、特に福祉、介護の現場では「スピーチロック」と言う身体的、精神的な言葉による行動制限にあたる可能性があります。「スピーチロック」と言うのは、例えば、人手不足の施設で、職員に余裕がなく「ちょっと待って」という言葉が使われることがあるかもしれません。「ちょっと待って」という言葉は、なぜ待たなければならないのか、どれくらい待たなければならないのかが分からないため、見通しなく、ただ待たせることとなります。また、命令口調なので、動かないことを命令していることとなります。「待って下さい」と「下さい」を付けても同じで、丁寧な言葉で命令していることとなります。そういう意味で、「ならぬことはならぬ」も言葉による行動制限である「スピーチロック」にあたるとも言えます。

※実際は、「ダメなものはダメ」のような、きつい、強いニュアンスではなかったようです。

そのように、見方、捉え方によっては虐待やいじめ、「スピーチロック」という面で問題となる「什の掟」ですが、それについては、今回はこのくらいにさせていただきます。

そのことを抜きにお話しさせていただくと、私は、「什の掟」の最後の「ならぬことならぬものです」という言葉が好きです。リズムもそうですし、理屈や言い訳をさせない、どこか強い感じが好きです。何とも言えず、好きな言葉です。正義感を感じますし、この一言でビシッと決まってしまうカッコよさを感じます。

それが言える人は自分自身を律しており、背中を見てまわりの人が憧れる人だと思います。いい加減で、口ばかりで、言い訳ばかりする人が同じ言葉を使っても、人は聞いてくれないし、何を言ってるんだ、となると思います。そんな理想、希望、憧れの存在のようなものを感じられる言葉だから私は好きなのだと思います。

「ダメ」という否定的な言葉を聞くと、自分に言われていなくても反応し、不調、不機嫌になる利用者さんがいます。その利用者さんから、「ならぬことはならぬものです」を思い出し、ダラダラと書いてみました。





各事業所 活動報告

きら きらでは今月、七夕の製作活動を行いました！彦星様と織姫様のイラストに、それぞれ好きな色で色を塗られ、両面テープを綺麗にはがして星のシールを貼り、きらきらした夏らしさを感じられる七夕飾りができました！そして肝心なお願い事…。ご利用者様、職員ともに「絶対叶いますように！」と祈りを込めて、思い思いにお願い事を書きました。皆様の願いが叶い、今年も健やかに過ごせますように😊。



もーと もーとの七夕イベントをご紹介します！まずは織姫様と彦星様の衣装作り！コーヒーフィルターに好きな色のスタンプでポンポンポン…と色づけします。色鮮やかな衣装が出来上がりました♡さらに台紙に星を飾り付け、いよいよ短冊に願いごとを書きます😊何を書こうかなと悩みながらも、それぞれ願い事を書くことができました！みんなの願いごとが叶いますように…🌟



とも ともでは、ステンドグラスの花火大会が開催されました。花火師さん（ご利用者様）の腕は抜群！皆さんのこだわりが詰まった素敵な作品にフロアが彩られています(^)「昼間だって花火が見たい」というそのあなた！ともには足を運んでみてはいかがでしょうか。



ららん みんなで缶バッジの製作をしました。真剣に取り組んでいました。どの色にしようかな？(〇)型にはめるのは力が入るよ！(´▽`)上手に出来た！(*~*)制作した缶バッジは、リュックのアクセサリにしたり、部屋に飾ってみたり、自由に楽しめるものになりました。



にこ みんなで綿あめを作りました！「綿あめってつくれるの？」「どうやって作るの？」戸惑いながらも挑戦！綺麗にふんわりした形にできたり、なんだか小さな塊みたいになってしまったり、出来は様々ですが味は一緒！みんな笑顔で「甘〜い♪」と味わっていました。



リレーエッセイ

ふぁみりあ 瀧澤職員

【私を構成する5つの要素】

- ①運動…体を動かすことが大好きで、バドミントン・卓球・スポレックなど球技をしていました。
- ②温泉…子供が生まれる前まで、友達と温泉巡りしてました。最近は家族で温泉に行ってます。
- ③絶叫系…ジェットコースターなど大好きです。子どもが大きくなったら一緒に乗りたいです。
- ④食事…食べる事大好きです。週1回は家族で外食。最近は子供が大好きなお寿司屋さんへ行きます。
- ⑤テレビ観賞…子供と一緒にアニメを見てます。昔は自分もジブリやアニメに嵌ってたので一緒に童心に帰ってみたいです。



「これだけはやめられないもの」

私のこれだけは止められないものは、「自分へのご褒美」です。実のところ、他にもいくつかあったのですが、こちらにさせていただきました。仕事や育児をしている中で「今日は頑張った、やり切った」というもあれば、逆に「今日は疲れた」「何で上手くいかないんだろう」と落ち込んでしまう事も多くあります。以前は悩むことも多くありましたが、「真面目過ぎるんだよ。何事もいい加減(良い加減)でやればいいんだよ。そうすれば上手く物事が進むよ」と私に言ってくださる方がいました。その頃から考え方を变えて、自分にあるご褒美をかうようになりました。時期や物は特に決めずにそのときに欲しい物を買に行きます。ある時には、DVDを借りたり、本を買ってみたり、お菓子を買うなどで、その日の気分です。

今回のテーマ
「私のストレス発散法」



もーと 松林職員

【私を構成する5つの要素】

- ①一難去ってまた一難の連続
時には一難去らないうちにまた一難が来ます。
- ②骨太な体
「骨太だから痩せても華奢にならないよね」と友人に教えてもらいました。
- ③完璧にできない完璧主義
学生時代に教えてもらいました。骨太を教えてくださいました友人です。
- ④家族
家族が頑張っている姿を見て私も頑張ろうと励まされます。
- ⑤食べること
今の唯一の楽しみです。



「今までですごく印象に残っている人」

今までですごく印象に残っている人は中学1・2年時の担任、K先生(男性)です。理科担当、ソフトテニス部の顧問、30代半ばぐらいの中肉中背、眼鏡の奥から覗く眼光は常に鋭く、論理的思考が強く指導が個性的でした。テストの返却時は点数を読み上げ、忘れ物をすると筆ペンで生徒の顔に「私は〇〇を忘れました」と一筆書き、そのまま一日過ごさせ、私たちの行動が気に入らないと「合唱コンクールは出場禁止」などと表明。クラスがまとまらないと「クラスを解散します」と宣言。私たちは教室から机や椅子と共に追い出されました。当時、まだ純粋な私は先生の言葉をまっすぐ受け止め真剣に悩み、クラスで話し合い、許しを請うために先生と対話するなど真摯に向き合っていました。歳を重ねるにつれて、その指導方法は謎になり、暗い過去になり、いまだに意味を理解できない私は、まだ精進が足りないのかしらと、このエッセイを書きながら気づかされました。

今回のテーマ
「私のNo.1ごはんにおかずとその魅力」

